

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

「アートのまち倉敷」観光誘客活性化計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

岡山県倉敷市

3 地域再生計画の区域

岡山県倉敷市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

課題①：新たな観光コンテンツの不足

目指す将来像①の実現にあたっての課題として、町並みの魅力のみに頼り、新たな観光コンテンツの開発が十分に行われてこなかったことが挙げられる。

課題②：観光客の減少

目指す将来像②の実現にあたっての課題として、昭和63年4月の瀬戸大橋開通により平成元年には8,920千人を記録し、平成9年7月の都市型テーマパークであるチボリ公園の開園で、翌年平成10年には9,273千人と多くの観光客にお越しいただいたが、平成20年にはチボリ公園が閉園、また目立ったハード整備等もなく、平成20年には6,716千人、また平成30年7月豪雨の影響もあり、令和元年では5,208千人と減少傾向が続いていることが挙げられる。

課題③：滞在時間の短さと「稼ぐ力」の不足

目指す将来像③の実現にあたっての課題として、観光客の発地別では、近畿・中国・四国の近隣圏からの観光客が80%以上を占め、市内宿泊率も20%を下回っているほか、多くの割合を占める日帰り客の平均滞在時間も、倉敷美観地区以外の魅力的な観光コンテンツの不足等から2時間49分と短く、典型的な通過型の観光地となっている。

また、市内随一の観光施設である大原美術館の入館者数は318千人（令和元年）と、本市を訪れる観光客の僅か6%程度であるなど、観光地としての「稼ぐ力」が育っておらず、観光が地域にもたらす経済効果を十分に享受できていない現状が挙げられる。

課題④：市内各地区の連携不足

目指す将来像④の実現にあたっての課題として、二次交通の不足等により、倉敷美観地区を有する倉敷地区のほか、「児島地区」「玉島地区」など市内各エリアが有する個別の魅力を一体的に活用できておらず、通過型の観光地となっており、本市が連携中枢都市圏の観光拠点としての役割を果たせていない点が挙げられる。

持続可能な観光地域が形成されるためには、市外からの観光消費を拡大させ、それを市内で循環させ、さらなる観光投資に繋げていくことが重要であり、観光客が観光消費行動を起こしたくなる魅力的なコンテンツの充実や、観光客の市内周遊の促進などが急務となっている。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

本市は、白壁の町家など情緒豊かな日本の伝統的な町並みが約21haにわたって広がる「倉敷美観地区」を有する、岡山県を代表する文化観光都市であり、倉敷美観地区の観光客数は3,283千人（令和元年）で48年連続で県内第1位となった。また、倉敷美観地区周辺には、大原美術館をはじめとした3つの美術館と、10を超えるアートギャラリーが集中するなど文化芸術資源も多く、高い観光競争力と独自性に色を添えている。

そこで、本事業を通じて、本市の総合戦略「第2期倉敷みらい創生戦略」に定める「受け継がれた歴史・文化の魅力を発信し、ひとを惹きつける」基本目標を実現するため、これらの文化芸術資源を有機的に結び付け、新たな観光コンテンツとして広く発信することで、本市が「文化観光都市」として、国内外でより一層の存在感を持ち、連携中枢都市圏等との観光交流人口を増大させ、将来の移住定住も視野に入れた持続可能な観光地域の形成を図ることを地方創生の姿として目指す。

具体的には次の4点を倉敷の目指す将来像とする。

- ①大原美術館を核とした文化芸術資源の認知度を一体的に高め、まち全体が「アートのまち」として賑わい、観光動機として認知されている。
- ②観光客数の減少に歯止めをかけ、年間560万人以上の観光客にお越しいただいている。
- ③文化芸術資源の活用により滞在時間を延長することで、「稼ぐ力」を備えた持続可能な観光地域づくりが推進されている。
- ④倉敷美観地区を観光のハブとして、市内全域はもとより、高梁川流域連携中枢都市圏をはじめ、より広域的なエリアへの観光誘客が促進されている。

【数値目標】

KPI①	当該事業期間中に市内文化観光施設を訪れた観光客数	単位	人					
KPI②	当該事業期間中の市内宿泊者数	単位	千人					
KPI③	市内年間観光消費額	単位	百万円					
KPI④	-	単位	-					
	事業開始前 (現時点)	2021年度 増加分 (1年目)	2022年度 増加分 (2年目)	2023年度 増加分 (3年目)	2024年度 増加分 (4年目)	2025年度 増加分 (5年目)	2026年度 増加分 (6年目)	KPI増加分 の累計
KPI①	918,807.00	18,193.00	19,000.00	19,000.00	-	-	-	56,193.00
KPI②	949.00	31.00	30.00	30.00	-	-	-	91.00
KPI③	49,263.00	1,137.00	1,160.00	1,160.00	-	-	-	3,457.00
KPI④	-	-	-	-	-	-	-	-

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進タイプ（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

「アートのまち倉敷」観光誘客活性化プロジェクト

③ 事業の内容

◆事業概要

本市が持つ強みである文化芸術資源を有機的に結び付け、「アートのまち倉敷」として新たに観光コンテンツ化し、定着させるための施策を、市内の美術館、ギャラリー、文化・観光施設ほか大学、宿泊施設・商工団体をはじめ、まち全体が一体となって推進する。また、「アート」が素材テーマの一つとなったJRと連携して行う「岡山デスティネーションキャンペーン」（令和3年度から令和5年度）や、瀬戸内国際芸術祭（令和4年度／3年に一度）等の大型キャンペーン等とも連携し、アートを核とした地方創生を実現する。

◆事業内容

事業① 文化芸術施設周遊促進事業の実施（課題①③の解決、KPI①の達成に寄与）

新たな観光コンテンツの不足（課題①）や、滞在時間の短さと「稼ぐ力」の不足（課題③）を解決するため、一定の開催期間を設け、期間中市内の美術館やアートギャラリーで、さまざまなアート作品を一斉に展示し、まち全体を美術館とする周遊型の事業を実施する。観光客にとっての身近な「アート」である、インスタ映え写真を撮影できる「アートなスイーツ」を提供する企画を抱き合わせで実施することで、地域での滞在時間と観光消費を高める。また、より効果的にアートを楽しんでいただくため、倉敷ゆかりの芸術家によるワークショップの実施などの参加型企画を行う。これにより、倉敷市内の文化観光施設を訪れた観光客数（KPI①）を増加させ、まち全体が「アートのまち」として賑わい、観光動機として認知されていることを目指す。

事業② 新たな文化芸術コンテンツの開発と磨き上げ（課題①③の解決、KPI①の達成に寄与）

新たな観光コンテンツの不足（課題①）や、滞在時間の短さと「稼ぐ力」の不足（課題③）を解決するため、瀬戸内海の多島美と瀬戸大橋の雄大なコラボレーションを楽しめる「児島エリア」の鷺羽山展望台に、地域と連携して風光明媚な景観との相乗効果を期待できる作品を設置することで、自然と一体的な作品として際立たせる試みや、「玉島エリア」では、昭和レトロな町並み自体を「アート」として活用したインスタ映えスポットの開発など、見せ方を工夫することで、市内に点在するこれまで「アート」と認識されていなかった観光素材を「アート」に発展させるための取組を進める。また、世界を代表する版画家、棟方志功の作品が常設されているホテルや、建築家の丹下健三・浦辺鎮太郎等が手掛けた「作品」（建造物）などにも着目し、これまで以上に裾野を広げ、アーキテツリズムの視点からも「アートのまち倉敷」を新たな観光コンテンツとして定着させるとともに、市内に立地する倉敷芸術科学大学等と連携して、地区の紹介となるようなテーマ性を持った作品を各地区の玄関口である各駅へ展示するなど、地域が持つ潜在力の活用と新たな連携に取り組む。こうしたことで、倉敷市内の文化観光施設を訪れた観光客数（KPI①）を増加させる。

事業③ 周遊促進と二次交通対策（課題③④の解決、KPI②③の達成に寄与）

滞在時間の短さと「稼ぐ力」の不足（課題③）や、市内各地区の連携不足（課題④）を解決するための事業。令和3年度から令和5年度まで実施される岡山デスティネーションキャンペーン期間中、JRを利用して移動・周遊手段を持たない多くの観光客が倉敷を訪れることから、市内各地区を巡る定期観光バスを運行し、市内二次交通への対策を行うことで、「アート」を通じた市内各エリアの一体感を醸成するとともに、市内各地のギャラリーや飲食店でアートコンテンツを不便なく楽しめる環境を整える。これにより、市内での滞在時間を延ばし、宿泊者数の増加（KPI②）や、市内年間観光消費額の拡大（KPI③）に繋げる。

事業④ 新しい旅行スタイルへ対応した誘客促進（課題②の解決、KPI①の達成に寄与）

観光客の減少（課題②）の解決に繋げるため、ウィズコロナ時代の観光振興施策として、本事業により開発する文化芸術素材を活用した、新しい旅行スタイルを徹底した宿泊型旅行商品を造成する旅行会社を支援する補助制度を、岡山デスティネーションキャンペーン本番の令和4年度に運用し、誘客促進を図る。これにより、倉敷市内の文化観光施設を訪れた観光客数（KPI①）を増加させる。

事業⑤ 大型キャンペーン等と連動した効果的な情報発信（課題②④の解決、KPI①②③の達成に寄与）

観光客の減少（課題②）や、市内各地区の連携不足（課題④）を解決するため、多くの誘客効果が期待される岡山デスティネーションキャンペーンに合わせ、その実施主体であるJR西日本が各駅に設置するフリーペーパー（西Navi）を活用した情報発信や、文化芸術施設周遊促進事業の実施期間中に、発信力や影響力を持つSNS等による「アートのまち」倉敷の発信など、効果的な情報発信を行う。各地区に共通する「アート」をテーマに、一体的な情報発信を行い、観光客数・宿泊者数を増加させることで、観光消費額の拡大に繋げる（KPI①②③）。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

本事業の実施にあたっては、事業者間の横の連携と専門的な観点等が求められることから、実行委員会形式を採用することとし、参画メンバーが役割に応じて主体的に関わり、事業を通じた売上の向上等を図ることで、参加負担金による自主財源の確保も視野に入れつつ、一般財源と合わせた自走化を目指す。また、二次交通対策では、事業の性格上、当初は行政が主体的に取り組むが、将来的に、乗車運賃を基に交通事業者が自主運行できるよう、魅力的なコンテンツ開発や情報発信などの誘客促進策を強力に推進するなど、民間による自走に向けた取組を進める。本交付金対象事業や関連事業を通じ、観光関連事業者の連携を深めるとともに、稼ぐ力を引き出し、持続可能な観光地域のプレイヤーとして、3年後の自走を目指す。

【官民協働】

「アート」を切り口とした本事業は、市や文化芸術施設はもとより、飲食・宿泊施設、交通事業者、市内各商工会議所・商工会、大学、観光コンベンションビューロー等、観光振興に携わる幅広い関係者が加わった実行委員会形式で実施することで、「オール倉敷」として観光誘客を推進する。

【地域間連携】

本市が中核市となる高梁川流域圏域内には、高梁市の成羽美術館、井原市の田中美術館など、大規模な芸術施設が点在しており、これらと一体となり、「アート」を面的展開することで、圏域の新たな魅力として注目度を高める。また既に本市は、隣接する岡山市や、広島県福山市を中核市とする備後圏域等との観光連携を行っており、「瀬戸内国際芸術祭」「岡山芸術交流」などの大型事業や、福山市の「ふくやま美術館」や尾道市の「島ごと美術館」などと相互連携を図ることで、アートをテーマにした広域周遊の促進や、メッセージ性の強い情報発信が可能となり、多角的な連携事業の展開が期待できる。

【政策間連携】

本事業は、倉敷市の総合戦略である「第2期倉敷みらい創生戦略」に定める「受け継がれた歴史・文化の魅力を発信し、ひとを惹きつける」基本目標を実現するため、同戦略に基づき、倉敷の魅力発信による交流人口の増大を、二次交通等とあわせて総合的に実現する事業である。同戦略では、「商業振興による地域の活性化を図る」「文化芸術活動を振興する」「歴史文化や伝統の保存・継承と活用を図る」を政策の一つとして掲げ、国内有数の観光地としての倉敷市の強みを生かし、国内外からの観光客の誘客拡大や消費拡大に向けた産業力の強化を図ることとしており、本事業により本市の個性と魅力を向上させることで、商工業振興・文化振興と一体となった地方創生を推進する。

【デジタル社会の形成への寄与】

取組①

該当なし。

理由①

取組②

該当なし。

理由②

取組③

該当なし。

理由③

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証時期】

毎年度 9 月

【検証方法】

外部有識者会議を9月頃に開催し、その中でK P Iを含めた事業の状況を報告し、検証予定。各年ごとのK P Iの達成度が著しく低い場合は、内容の見直し案を検討し、有識者の意見をいただいたうえで、事業の見直しを行う。

【外部組織の参画者】

倉敷商工会議所，児島商工会議所，玉島商工会議所，真備船穂商工会，つくば商工会，J A晴れの国岡山，倉敷観光コンベンションビューロー，三菱ガス化学，三菱自動車工業，岡山学院大学・岡山短期大学，川崎学園，倉敷芸術科学大学，作陽学園，岡山大学資源植物科学研究所，中国職業能力開発大学校，倉敷市立短期大学，中国銀行，トマト銀行，水島信用金庫，玉島信用金庫，日本政策金融公庫倉敷支店，連合岡山倉敷地区協議会，倉敷中央公共職業安定所，山陽新聞社倉敷本社，NHK岡山放送局，倉敷ケーブルテレビ，玉島テレビ放送，エフエムくらしき，倉敷市議会（倉敷市まち・ひと・しごと創生有識者会議の構成員）

【検証結果の公表の方法】

倉敷市のホームページ上で公開予定

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 58,959 千円

⑧ 事業実施期間

2021年4月1日 から 2024 年 3 月 31 日 まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 大原美術館を中核とした倉敷美観地区の文化・観光推進計画

ア 事業概要

文化庁補助事業であり、本市の「アート」の中核を担う大原美術館を中心とした倉敷美観地区（中心市街地）の魅力増進計画。展示環境やコンテンツ（作品・歴史）の強化とその情報発信、ユニークベニユーの活用やツアーガイド育成など大原美術館が持つ文化資源の魅力の増進等に取り組むほか、「新児島館（仮称）」として、大原美術館展示作品の収集や、大原美術館の開館にも多大な貢献を行った画家、児島虎次郎の作品を展示する施設の整備や、倉敷考古館など近隣文化施設間の移動導線を明示するサインやマップの整備等を行う。

イ 事業実施主体

岡山県倉敷市

ウ 事業実施期間

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(2) 該当なし。

ア 事業概要

イ 事業実施主体

ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日まで

(3) 該当なし。

ア 事業概要

イ 事業実施主体

ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日まで